

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について  
〔2013 年 1-3 月期〕

公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〔調査結果の概要〕

業況は、経済政策への期待から、回復に向けた動きが現れている。

- 2013 年 1-3 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 29%で前回調査（2012 年 7-12 月期 38%）より 9 ポイント改善している。また、「好転」とした企業は 9%で前回調査（6%）より 3 ポイント改善している。ともに前回調査より改善され、景況判断 DI は▲20 となり、前回調査（▲32）より 12 ポイント改善している。

以下、その他業況感 DI の内訳

- ・ 売上高 DI は▲17 で、2012 年 7-12 月期から 3 ポイント悪化
- ・ 処理量 DI は▲19 で、2012 年 7-12 月期から 5 ポイント悪化
- ・ 契約単価 DI は▲9 で、2012 年 7-12 月期から 4 ポイント改善
- ・ 営業利益 DI は▲17 で、2012 年 7-12 月期から 5 ポイント改善
- ・ 資金繰り DI は▲3 で、2012 年 7-12 月期から 5 ポイント改善
- ・ 借入難易度 DI は 6 で、2012 年 7-12 月期から 5 ポイント改善
- ・ 設備投資 DI は▲6 で、2012 年 7-12 月期から 9 ポイント改善
- ・ 従業員数 DI は 0 で、2012 年 7-12 月期から 5 ポイント改善

- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲10 となり、回復基調が続く見込みとなっている。
- 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 0.5%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 1.4%減となった。
- 経常利益率については、平均値が 5.16%（前回調査 4.95%）となった。回答割合は「5%未満」35.7%、「5-10%未満」17.9%、「10%以上」14.5%となった。
- 経営上の問題点については、1 位の「同業者相互の価格競争の激化」、2 位の「需要の停滞」、3 位の「顧客先からの値下げ要請」、4 位の「人件費以外の費用増加」となった。前回調査と比べて、「需要の停滞」（23%→20.2%）は低下したが、「人件費以外の費用増加」（9.3%→11.5%）は上昇している。

※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

〔調査の要領〕

- 調査の対象：2008 年 10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成 25 年 4 月 24 日～5 月 31 日
- 回答企業数：417社

